『withコロナ』

東北学生卓球連盟　幹事長　髙屋　竣大

この度は、第2回「日学連アゴラ」に文章を掲載していただけること、感謝申し上げます。

しかし、このような場で文章を書くという経験は初めてで、なかなか文字を打つ手が進まず、今週の期末テストに怯えつつ時間だけが過ぎてしまっています。私も素敵な文章を書きたかったのですが、そのような文才を持ち合わせていなかっため、今回は個人的なコロナウイルスへの恨みをひたすらに書き連ねていきたいと思います。

私は現在、学部三年生なのですが、大学生活においては我々の世代が一番コロナウイルスに翻弄された学年かと思います。入学と同時にコロナウイルスが流行し、授業はすべてオンライン、部活やサークルも活動禁止となりました。その結果として、友人を作る場が非常に少なくなり、孤立してしまった人も少なくないでしょう。（勿論私もです）

部活動に関して言えば、活動禁止の影響で、私が入部したのは1年生の10月頃でした。その上、2か月後には、またしても活動停止となり、2か月しか部活をしないままに後輩が入ってきてしまいました。そして気付けば2年、3年となり、先輩方の引退により最高学年となってしまいました。部活の伝統行事を一切経験できずに最高学年となってしまい、時間の儚さをひしひしと感じています。

そして、今年度から引き継いだ東北学連幹事長という立場としても、コロナに翻弄される一年間になりそうです。コロナウイルスの話題が薄れ、以前の大会の姿に戻していこうとした矢先に第七波が訪れ、大会の開催すら不安な状況に逆戻りしてしまいました。今年度の秋季リーグ戦、そして来年度大会が無事に開催されることを祈るばかりです。

このような過ぎてしまった時間を悔いても仕方がないので、愚痴は程々にして、今後の収束の為にもコロナ対策を再度意識しつつ、残りの大学生活を有意義なものとできるよう、多方面で努力していきたいと思います。

最後に、東北学連幹事長としてまだまだ未熟な私ではありますが、東北地区の大学卓球が少しでも盛り上がるよう尽力致しますので、一年間、何卒よろしくお願い致します。

最後までお読みいただきありがとうございました。